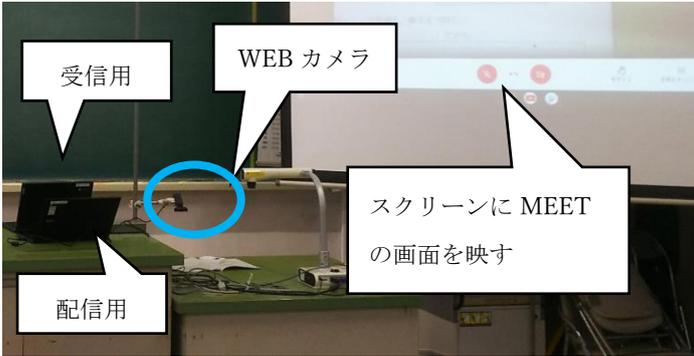


## 1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立倉敷南高等学校		
実践者等	杉原 真央	実践日	令和3年5月～
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	授業 (理科物理)		
対象生徒 (学年等)	3年次		
単元名 (教科・科目の場合のみ)	コンデンサーの接続 (ただし、単元に固有な取り組みではない)		
使用したアプリ等	Meet		
実践の概要 (ねらい等)	自宅にいる生徒に対して、対面により近い形で授業を受けられるか。		
<b>実践の内容</b>			
<p>教員の声や板書のみであれば、教卓に Chromebook を設置して Meet を接続すれば生徒は自宅から視聴することができる。一方で、多くの教員が普段の授業で実物投影機 (ELMO 社のもの) を活用し、資料を提示しながら授業を行っているが、出席停止の生徒の学びの保障のために板書だけでなく、実物投影機の画像も Meet で送信できないか考えた。</p> <p>その際、実物投影機と Chromebook を接続し、Meet のカメラを外部カメラにすることで実物投影機の映像を生徒に配信できることを確かめ、実践した。一方で実物投影機の場合、黒板の板書が映せないため、カメラの切り替えを行う必要が生じた。</p> <p>そこで、県から昨年度 10 月に納入された Web カメラの活用をすることとした。写真にあるようにセッティングを行い、実物投影機として Web カメラを活用し、板書を映す必要があればスタンドを動かせば容易に板書を映すこともできた。Web カメラのフォーカスが固定であるためピント合わせに難があるが、現状の装置で容易に授業配信ができる。</p> <p>また、在宅勤務の教員が授業を配信する場合も Chromebook では教師の顔は映せるが、板書まで映すことは難しいが Web カメラさえ自宅に持ち帰ればそれを実物投影機として活用し、教師の書くノート等を映し配信することで、通常に近い環境で授業を行うことができる。</p>			
			
参考となる HP 等			